

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある小規模校である。小規模特認校制度による児童の受け入れがあり、全校児童は26名である。児童が市内全域から転入し、バス通学をしている。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科（英語・ことば）など様々な表現活動の場を設定して取り組んでいる。声に出して発表することが苦手な転入生もいたが、自分の考えを相手に伝えようと意識して取り組み、少しずつ表現できるようになってきている。同時に、在校生も転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められるようになり、課題の1つとなっている。そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 日立特別支援学校との交流学习（1・2年生）
- イ なかよしフォーラムの実施（人権集会）
- ウ 地域の高齢者福祉施設との交流学习（6年生）
- エ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

2 実践内容

(1) 日立特別支援学校との交流学习

2年生は昨年度交流をしていたので、とても楽しみにしていた。「なかよし集会」では、名刺交換やゲームなどを行った。昨年度よりもお互いをよりよく知るために積極的に声をかけて、仲良く活動することを目標にした。中里交流センターでは、音楽に合わせてダンスやゲームを楽しんだ。本校児童が進んで声をかけて遊びに誘って、自然に仲良く交流する事ができた。始めは緊張をしていたが、昨年度よりも2年生は、友達の顔や反応を見ながら、思いやりの心を持って接する姿があった。おもちゃによる交流やボール遊び等でグループでの遊びをすることで、1年生も仲良く声をかける事が出来た。別れが惜しくてお互いに「ありがとう」と声をかけていた。1・2年生で交流を行うので、3年生になると交流が途切れてしまう。3年生以降も児童間のつながりを深めるために、今後も継続して手紙などの交流を続けていきたい。



(2) 地域の高齢者福祉施設との交流学习（6年生）

6年生の総合的な学習の時間では、中里の福祉を考え、自分たちにできる事は何かを事前に話し合い、計画をしてから地域の高齢者福祉施設「山水苑」との交流を行っている。高齢者に対する思いやりや共に生きていこうとする心を育みたいというねらいで活動している。昨年より更に高齢者への接し方を工夫し、ゲームもお年寄りにもっと楽しんで貰えるよう友達と話し合った。そしてお年寄りへの理解を深めたことで、自ら進んで高齢者にかかわり主体的に活動することができた。

(3) なかよしフォーラム（人権集会）の実施

みんなで仲良く生活ができるように、「今できること」について、学級毎に話し合いを行った。その話し合いをもとに「なかよしフォーラム」の集会を行った。6年生が計画・司会進行を行い、各学級で話し合ったそれぞれの目標を模造紙に書いて児童が発表した。学級や休み時間での他学年とのトラブルや些細な行き違いについて考えることができた。発表を聞き「なぜその目標にしたのか」が分かり、今後学級や他の学年と仲良くするためにはどうしたらいいか、具体例を挙げることができた。その後みんなで繋がり合えるゲームを行い、楽しい雰囲気作りができた。

どの学級でも「気持ちは仲良くしたいと思っているが、強い言葉が出てしまう」との意見が多く、休み時間のトラブルが多かった。感想発表では「もっと優しい言葉で伝えたい」など、自分の言動を振り返るような意見が多く出た。その後の休み時間では、言い争いも少なくなり仲良くしようとする姿が見られた。



(4) 豊かな体験活動の展開

ア みんなでランチ（年間3回実施）

健康給食委員会が進行の中心となり、縦割り班やくじの班など全校児童・教師全員が、相談室で一緒に仲良く話をしながら給食を食べている。班ごとに食育クイズを行うことで連帯感ができたいへん盛り上がった。小規模特認校制度による児童は、このような場で他の児童に質問をしたり話を聞いたりすることで、児童との関わりを深めていた。また事後は、カードに感想を書き、写真と共に掲示板に掲示し、雰囲気作りをしている。

イ 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、縦割り班による清掃活動や田植えや稲刈り等を行っている。年度当初に、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して教師側が4つの班に分けている。清掃では、昼休みが終わると、高学年の児童は低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に連れていったりする姿もよく見かける。また、上級生が優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子が多く見られる。

ウ あいさつ運動や奉仕活動・ありがとうカードの実施

通学団でのあいさつ運動や学年花壇の整備を全校で取り組むことができた。多くの活動の中でお互いの良さを認め合うために「ありがとうカード」を作成し、全校児童が友達への感謝の気持ちを表わすことができた。

3 成果

- ・人権集会や人権コーナーの活用により、友達のよいところや考えなどの理解が深まり、他尊意識を育てたり、将来の夢や頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情をも高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校での活動は大変効果的であった。

II 今後の課題

人間関係づくりが苦手な児童も多く、行事等楽しい場面があると自分中心の考え方や行動をしてしまう児童が見られる。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを、計画的継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

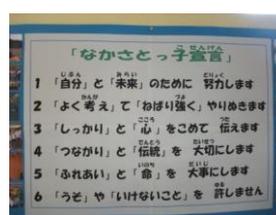
児童同士の「ありがとうカード」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示し、福祉委員会の児童が全員のメッセージを朝の放送で紹介している。また特別支援学校との交流会や高齢者福祉施設での交流の写真などを掲示して、児童の啓発を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



人権メッセージ



ありがとうカード



なかさとっ子宣言



なかよしフォーラム